

令和3年（2021年）を迎えて

“極陰は陽に転ずる”森信三先生が、1990年に21世紀の予言をなさっています。「混迷を突き抜け、2025年から上向きな日本民族になる。そして2050年、そのとき列国は日本の底力を認めざるを得なくなるだろう」と。

20世紀の初めには人種の不平等は当然であり、むしろ正義であると思われていた。

しかし、日露戦争での日本の勝利は、有色人種が白人に勝った歴史的偉業を成し遂げ、全世界の有色人種に限りない自信と誇りを与えました。大東亜戦争に日本は、負けたとはいえ、アジアの国々を解放し、植民地は完全になくなりました。日本人の血と汗と涙の結晶と言っていいでしょう。20世紀の半ばのことです。

昨年、令和2年は、『武漢コロナ』という、志那が世界にばら撒いた犯罪的行為が、政治・経済・社会に甚大な被害をもたらしました。

『武漢コロナ』は、志那のウイルス研究所が発生源で、人工的に作られた可能性が高いと、大村智（ノーベル生理学・医学賞受賞者）が語っておられます。

盗人猛々しいとはこのことで、志那は現地視察の受け入れを拒否し、反省どころか、他国に責任を転嫁する始末です。

さて、この歴史的変化ともいえる、令和3年を我々社長は、どう対処すればいいのでしょうか。

「千万人と雖も吾往かん」と言った孟子が、同時に別面で「豈に綽々余裕有らざらんや」と言って余裕の大切さを論じている。こういう乱世になればなるほど、余裕があって初めて本当に物を考え、本当に行動を起こすこともできる。」と安岡正篤先生も教えて下さっています。

社長、心の余裕はありますか？

社長、身体に健康に余裕はありますか？

社長、経済的に余裕はありますか？

無いから、困っているのだ！有れば、心配するか！という、怒りにも似た声が聞こえて来そうです。

しかし、冷静に考えれば、今までの考え方や行動を根本的に反省し、社長自から姿勢を変えていく外ないことが分かるはずです。

他に原因を求めている限り、解決の糸口は見つかりません。

幸い、我々日本人のDNAには、コツコツ努力すること、決して諦めないこと、そして再出発をする勇気があります。

社長！よしやるぞ、今からだ！と、生まれ変わる位の気合を入れて頑張りましょう。我々中央総研も、桁違いの意気込みで社長を支えて参ります。



今月のポイント

新しい時代の幕開けの年！！